

第 1 回福山市学校教育環境検討委員会

1 日 時 2014 年（平成 26 年）1 月 29 日（水） 13：30～15：30

2 委 員

◎委員長，○副委員長

名 前	役職名	名 前	役職名
◎秋川陽一	福山市立大学教育学部教授	森美智代	福山市立大学教育学部准教授
○永井純子	福山平成大学福祉健康学部教授	村上勝士（欠）	福山市自治会連合会会長
小野明人	福山市民生・児童委員協議会会長	藤井春勝	福山市公民館長会会長
平田誠治（欠）	福山市 P T A 連合会会長	藤原理絵	福山市 P T A 連合会監査委員
西本紀子	福山市 P T A 連合会女性部会長	岡本康成	福山市子ども会育成協議会会長
荒木一夫	福山市公立小学校長会会長	飛田洋悟	福山市公立中学校長会会長
松本茂太郎（欠）	福山商工会議所副会頭	喜多村祐輔	福山青年会議所理事長
藤本和士	連合広島福山地域協議会事務局長		

3 概 要

- (1) 教育長挨拶
- (2) 福山市学校教育環境検討委員会委員の紹介
- (3) 事務局紹介
- (4) 委員長・副委員長互選
- (5) 諮問
 - ・望ましい学校教育環境のあり方について
- (6) 審議スケジュール
- (7) 事務局報告・説明
 - I 福山市小中一貫教育の概要について
 - II 福山市の児童生徒数等の現状と将来推計について
 - III 福山市立小中学校における教育環境の現状について

【意見】

- ・学校関係者評価の委員の立場から学校の状況を見て、挨拶をする、時間を守る、掃除をしっかりとる、学力が上がるなど、小中一貫教育の試行実施の成果が出てきていると感じている。
- ・洋式トイレや空調の整備など、子どもが気持ち良く勉強ができる環境を整えてもらいたい。
- ・子どもにとって、『快適』が『最適』とは限らない。教育的視点で議論をしていきたい。
- ・これまでの小中一貫教育の取組の中での成果は、小中学校教員の意識の変革と子どもどうしの交流により小学校から中学校への接続がスムーズになったことである。課題は、今後は、より各校区の特色をしっかりと出していくことである。

- ・今後の子どもの数の減少による学校づくり，学級づくりがどうなっていくのか，少子化時代の学校教育のあり方が現状ではまだ見えない。
- ・保護者の中には，少人数の方が教員の目が行き届くということも言われるが，切磋琢磨する子どもどうしの関わりも大切である。
- ・学校が存続できなくなる状況にある。地域に学校がなくなると，地域が廃れるという不安もある。地域と子どものつながりづくりが重要である。
- ・学校教育の中でコミュニケーションの力を育てていくためには，幼少期からの世代を超えた交流が必要である。今後は，少子化とともに国際化に向かう。ふるさとや地元のことを理解して，それを発信していくことのできる人材を育てていく必要がある。それは，社会の大人の責任である。
- ・中学校区の範囲が広いため，連携した取組を行う際，移動に課題がある。完全実施までの試行期間の中で，どうすればより連携がとれるか，どう環境を整えていくか，検討していく。
- ・保護者の負担等を考え，中学校給食について検討して欲しい。
- ・耐震化だけでなく，校舎の外観をきれいにすることも検討して欲しい。
- ・小中一貫教育で成果を出しているデンマークの教育のように，幼稚園と小学校の連携も必要である。
- ・望ましい学校教育環境を検討する上では，学校現場の教員の賛同も必要である。考えを反映できるよう，意見を聞く必要がある。
- ・委員会では，子どもにとって望ましい学校教育環境のあり方について，最低限のところを何とかするというのではなく，全国に誇れるところを探しながら，難しくても希望を持って，話をしていきたいと思う。

【まとめ】

○諮問内容について

- ・望ましい学校規模等の基本的な考え方については，委員会の見解を出す。
- ・教育環境の整備については，協議すべき事項・論点を絞りながら，大切なことは取りこぼさないように議論を進める。

○本委員会では，望ましい学校教育環境のあり方について，委員が知恵を出し合い，行政が教育環境の整備を行うに当たっての激励となるようなものにしていきたいと考える。